

3日(火)、宵の東の空で、月と火星が並んで輝く

3日(火)の18時ころ、満月に近い明るい月が東の空に輝きます。そして、月のすぐ左下を見ると、オレンジ色の明るい星が見えるでしょう。この星が火星です。火星は、-1等星でかなり明るいので、肉眼でもよく見えるでしょう。なお、火星の右下にもオレンジ色の星があります。これは、おうし座のアルデバランです。火星より少し暗いのですが、肉眼でもよく見えます。

この後、月は火星にさらに近づき、4日(水)明け方前、西の空に沈んでいくころに最も近くなります。そして、4日の夕方、東の空に月と火星が見えるころには、月が火星の左下に移動し、間隔が広まっているでしょう。晴れましたら、3日と4日の連続してご覧いただくと、月の移動が実感できます。

4日(水)、明け方、りゅう座(しぶんぎ座)流星群が極大となる

りゅう座流星群は、りゅう座の方向から全天に流れていきます(※昔は、ここにしぶんぎ座があったので、しぶんぎ座流星群とも呼ばれます。)。りゅう座流星群の極大は、4日(水)のお昼ころです。このため、多く見られるのは、3日(火)の深夜から4日の明け方となります。今年は月明りがあり、あまりいい条件ではありません。また、極大の時刻が昼間になるため、あまり多くの流星は見られないでしょう。実際に見られる数は、松山市内で、4日の未明から明け方ころ、1時間あたり数個程度になるでしょう。なお、郊外に出かけると、1時間あたり10個くらい見られるかもしれません。観察する時は、星を目印にするよりも、おおまかに北東の空を見ればいいでしょう。なお、4日の明け方は、西の空で月と火星が接近中です。こちらは、松山市内からでもよく見えますので、忘れないようにご覧ください。

23日(月)、夕方の南西の低い空で、月と金星と水星が並んで輝く

23日(月)の夕方、18時15分ころ、西南西の低い空に、大変細い月が輝きます。そして、月の右上に金星が見えてくるでしょう。金星は大変明るく、18時前でも見えます。

さて、金星に注目して、少し右を見てください。すると、少し明るい星が見えてきます。この星が土星になります。土星は普通の1等星と同じくらいなので、肉眼でも見えるはずですが。

この後、空が暗くなり星が見やすくなるのですが、月や金星などの高さが低くなります。必ず、18時15分前後にご覧ください。また、西から南西の方角に建物などの障害物のないところを、事前に見つけておくといいでしょう。



26日(木)、宵の南西の空で、月と木星が並んで輝く

26日(木)の18時30分ころ、南西の空に、半分より少し欠けた月が明るく輝いています。そして、月のすぐ右に並んで、大変明るい星が見えます。この星が木星です。木星は、金星の次に一番明るいので、大変目につくでしょう。なお、時間がたつと下の方に低くなりますので、見ごろは20時ころまでになります。

★冬の明るい星を見よう

冬の夜空は、右のように冬の大三角や冬のダイヤモンドといった、分かりやすい星の並びがあります。これらの中で、最も明るいのはシリウスです。プロキオンも明るく、冬の大三角は大変目立つ存在となるはずですが、ただ、20時ころではまだ高さが低く、南の空高く見えるのは、夜遅くになります。右の図は、冬の星が最も高く昇ったころの時刻に、南の空を眺めた時の星空です。画像の上が北、右が西、左が東となります。

冬のダイヤモンドは冬の六角とも呼ばれ、大変大きく広がっています。また、カペラは頭の真上を越してやや北の空より、ポルクスはほぼ頭の真上になります。

さて、今年の冬は火星も加わり、いっそうにぎやかになっています。火星は、アルデバランと同じようにオレンジ入りに光っています。この二つは近くにあり、間違えやすいのですが、明るさに違いがあり、火星が明るく見えます。この明るさで区別すると、いいでしょう。

なお、地平線付近のカノープスは、天気によって見えないときもあります。なかなか見えないので、見えるといいことが起こる、長生きができるなどと言われます。地平線まですっきり晴れた夜は、ぜひ探してみてください。

